

平成 23 年度地区懇談会(新生地区)議事録(概要)

平成 23 年 10 月 27 日(木)老人憩の家 新生虹の家 出席者数 45 人

情報提供:地域とともに描くまちづくり

説明:市長

- ・市も何でつくらないと言われるが、市主導では地区によって合わないことが多い。地区によって描く将来図、青図は異なることから、各地区でそれぞれつくることが大事。
- ・具体的に何をするか、3年後・5年後・10年後の青図を作って欲しいが、中には来年から取り掛かれるものもあると思う。
- ・皆さんは月1回会議をして頂きたい。後で実施できるかアンケートをしようと思う。
- ・できれば12月半ばまで話し合ってもらって、1月以降にささやかなものであれば平成24年度の施策に入れられるし、平成24年度に議論しようということにもなると思う。

地区連合町内会:発言なし

その他:防災対策について【担当:総務G、土木G】

意見:

- ・津波対策のための防波堤強化はコスト面から厳しい。100~200年に1回の災害なら、皆で力を合わせて復興というのも考え方のひとつ。来年以降の予算に組み込んでやる予定は。
- ・大雨対策も、鷲別方面からやっていると多額の経費が掛かる。単年度ではなく、長いスパンでは可能では

回答:市長

- ・津波が来たら、とにかく逃げる。高台避難のマップは恐らく道内初。高台避難の後どこに逃げるかは、平成24年度から検討。
- ・大雨は、コンサルの調査で、若草町2丁目と4丁目の方の緊急性が高かった。少しずつではあるが、流れにくい緊急の場所を流れやすくしている。

その他:高齢者の雇用について【担当:商工労政G】

意見:

- ・高齢者も働くことができるが、その場がない。高齢者が働ける場所づくりが必要。一方、共働き世帯が増え、児童クラブで子どもを預かっているが、高齢者をそういう場で雇用できれば良いと思う。

回答:市長

- ・今の話は『地域とともに描くまちづくり』の中に入れてほしい。年金のみでは足りず、シルバー人材センターで働いている人もいる。若年層の人も職が無く、年金をもらっている皆さんを頼っている。できれば、次代を担う子どもを何とかしたい。

その他:高台避難場所について【担当:総務G】

意見:

- ・新生町望洋町内会の避難場所は、3カ所指定されている。
- ・避難は原則徒歩だが、東北でも46%の人が車で避難したとのこと。家族と一緒に車で逃げるのは自然の流れ。老人憩の家付近は車や人であふれる。
- ・かなりの急坂で、冬はアイスバーンにもなる。除雪対応をどうするかも考えてほしい。

回答:市長

- ・新生町望洋町内全域を避難場所扱いにすることが必要かも知れない。
- ・課題をクリアする話し合いをしたい。できれば、ある程度覚悟をお願いするかも知れない。